

令和7年度第2回登別市介護保険運営協議会 議事録

日時：令和7年11月18日（火）

18時00分～18時50分

場所：登別市役所 2階 第2委員会室

1. 議案第1号 登別市介護保険運営協議会副会長の選出について

委員の選出方法について意見を求めたところ、「指名推薦」の声があり、委員の互選により選出

2. 議案第2号 第10期登別市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定に伴う日常生活圏域の検討について

(質疑応答)

委員 これまでの過去の歴史から振り返ってみても、日常生活圏域と地域包括支援センターの業務の圏域というのは、一緒ではないと市が明確に見解を示されていて、今の説明でもこれまでは地域包括支援センターの圏域に引っ張られた改正が行われて現状に至っているという説明がありました。しかしながら、次期計画の策定に向けた日常生活圏域の変更は現状のままとする案を出されていますけれども、それは関係する地域などの意見などは踏まえた形での見解ということなのでしょうか。そこをお尋ねしたいと思います。

事務局 今回のこの検討にあたりましては、各地域のご意見を聞いたということではなく、本市の中で第9期計画の検討をした時の状況と市民アンケート等を勘案しまして検討したところでございます。

委員 では、あくまでも事務局の内部での整理で提案されてるということですね。

事務局 はい、そのようになります。

委員 どこかのタイミングでこの日常生活圏域の区割りというのは、引き続き検討ということになっていますから、検討されていくことになると思いますけれども、遅れば遅れるだけ、今回しなければまた3年後になるし、ということがずっと繰り返されてることになると思います。国が示している日常生活圏域はいろいろ資料で説明されていますとおり、やっぱり地域生活に密着した圏域という整理ですから、社会資源の、人口動態があるなしに関わらず、そこに住み慣れた方々にしてみれば、どんなに社会資源が変わろうとも自分たちの生活圏域は変わらないというのが基本だと思いますし、だから立地適正化計画では、ちゃんとそれぞれの地域を指定して圏域を定めて計画を立てていると思います。けれども、地域包括支援センターの圏域に引っ張られたことによって乖離があるということは、どう考え

ても見直すべきだと考えますし、これから地域包括ケアの推進というのは、地域関係者あげて協力していかなければならないでしょうし。

さらに地域包括ケアのもととなるこのまちの包括的な支援体制の整備をどのように進めていくのかという考え方に基づいてしっかりと議論されていくべきだと思いますので、今回このままでいくという方向性はわかりましたけれども、次期計画あるいは次の段階でしっかりと地域と連携を図りながら、地域の関係者のご意見もいただきながらしっかりと協議をいただけるように、今からお願いしておきたいと思います。この意見は以前にもしていますけれども、現状のままというのが続いておりますから、改めて今回、第11期計画についてはしっかりとご協議をいただきたいと思っています。事務局だけの案ではなくて、やはりしっかりと地域の関係者の声を聞いたうえでの改正となるように改めてお願いしたいと思っています。なので今回のご意見については、そういった結果がありませんでしたので、これは致し方ないと思いますので承知は致しましたけれども、第11期計画についてはしっかりとお願いをしたいと思いますし、前回の委員会では次期計画の策定は、コンサルにお願いするという説明がありましたし、なおのことそういった取り組みを進めていくうえでも、しっかりと圏域ごとの声を、地域の声をしっかりと反映させていけるような仕組みに一日でも早くしていただけるように準備を進めていただきたいと思っています。以上です。

事務局 はい。委員がおっしゃったとおり、日常生活圏域の検討というのは以前から、団塊の世代の方が75歳以上になります2025年度を見据えて、まずはこの圏域で、この3圏域で頑張ってきたところでございます。今回この第9期計画期間中に2025年度を迎えまして、委員おっしゃるように見直しも含めて検討すべきだろうという意見もございますが、まずは第10期計画に向けては、この圏域でやらせていただきたいと、その後のこの検討につきましては、今回コンサルに委託している中で、初めて「地区別カルテ」というものを作成していくこととなります。そういったことで、地区別のいろんなニーズとか、そういったこともさらに深めてまいりますので、それらの意見も持ちまして第11期計画以降の見直しというのは地域の方のご意見や、利用者さんのご意見を踏まえて検討していくことを考えてまいりたいと思います。

議長 ほかに何かご意見ございますか。

委員 生活圏域が概ね上手くいってるということですが、病院に関しては室蘭市が50パーセント以上で登別市はわずかなので、概ね上手くいってるとは一般的にはいえないと思います。あと人口などは集計してみたら高齢者は578人減っていますが、高齢化率は増えています。3年間で。市のホームページでも初年度から人口は減ってきてるにも関わらず、高齢化率は

増えてくるんです。10年後には54.7%となっているということではなんと問題ないのかどうかちょっと疑問です。

事務局 本市の高齢者人口も令和2年度をピークに減少に転じているんですが、生産年齢人口が減少しているということで高齢化率というのはこれからもどんどん高くなっていくと。そういったことに向けて、医療の方はこの案件のことで答えることは難しいんですけども、介護については高齢化率が上がってきていることも踏まえて次期計画で、きちんとサービスが提供されるような基盤を整備していくような計画を策定するところがございます。

高齢化率が高くなってきて問題が無いのかというのは、市全体としては若年者の人口やそういったことで問題がいろいろあるという認識ではおりますが、それが介護のことで若年者人口を増やすとかそういった施策まではうたっていけないので、別な話になってしまうのかなと。

委員 ただ一般的なイメージで、高齢化、上の方が多くてこう三角になっていて、そのイメージだから上の大きいところが消えるとそんなに高齢化率って増えないのかと思ったらものすごく増えているんですが、それは令和6年度で令和7年度からだんだん人口減少になっていくと書かれていますけど、これに関して危機感はないのでしょうか。

事務局 本市としましては、若い世代、そういったところの世代が減っていくということで、「こどもファースト」ということを市長も掲げまして、子どもを産み育てやすい環境作りというのを市の方でも施策を打っていった状況であります。

議長 第10期計画だから、第11期計画のときにまたコンサルタントの方に協力していただいて日常生活圏域を含めて介護保険も含めて協議するんですよね。

事務局 まず第10期計画はコンサルに支援してもらいながら策定させていただくんですが、第11期計画の日常生活圏域の検討については市が始動します。ただ、それには、今回の第10期の計画で策定するときの、コンサルで作成していただく資料等十分使っていけると思いますので、地域の実情とかもより反映させていけるのかなと思っています。

第11期計画で日常生活圏域の見直しを検討するというので、今回の案件は承認となる。

3. 報告第1号 令和6年度介護保険事業関係決算について

令和6年度介護保険関係決算について事務局より説明

(質疑応答) 特になし

4. 報告第2号 令和6年度認知症初期集中支援推進事業の事業報告について
令和6年度認知症初期集中支援推進事業の事業報告について事務局より説明
(質疑応答) 特になし

5. 報告第3号 令和6年度総合事業の事業評価について
令和6年度総合事業の事業評価について事務局より説明
(質疑応答) 特になし

6. 報告第4号 地域密着型サービス及び介護予防・日常生活支援総合事業に係る事業者の指定等について
地域密着型サービス及び介護予防・日常生活支援総合事業に係る事業者の指定等について事務局より説明
(質疑応答) 特になし

7. その他

委員 先ほどの話に続きますが、市のホームページに掲載されていることなのですが、北海道の高齢化率を大きく上回る状態になって令和7年度から人口減少に伴い、高齢化率が増えると考えているのですが、現段階でもうなっています。もし人口が減ると、事業所の職員数も減ると思います。それでいて介護保険が上がる。そうするとサービスを受ける方は非常に大変だと思いますが、受ける側の考えをちょっと想像してみるときついのではないかなと思って、それで危機感がないのかと言ったんですが、どうなんですか。

事務局 これからの市内の高齢者の方の介護保険料が上がったりとかそういった話でよろしいですか。

委員 はい。

事務局 今後の介護保険料につきましては、第9期計画を策定した際も保険料の基準額をこれまでと同額で据え置いています。今後の見通しも2040年度くらいまで見据えた中で、現在本市で10億円程度保有しております介護給付費準備基金というものがあります。介護保険料が急激に上がらないように利用するための準備基金でありまして、基金を適切に取り崩すことによって2040年度までは介護保険料の急激な増額は抑えられるという見込みで現在の計画を策定したところです。今の段階であっても、全道的に見て一番低い保険料となっています。段階的に上がらざるをえない時期もあるとは思いますが、急激に上がることはなく、いままでと同じような介護サービスが提供される見込みといった認識であります。

委員 今言われた2040年は高齢化率が45.9%です。非常に大変だと思います。現状はなんともないのかもしれないですが、ちょっと介護とは違いますが、カント・レラは耐震の予算がないから結局郷土資料館に来て、

郷土資料館も場所がないから、2階の展示室を取り崩して倉庫になって、1階だけにカント・レラの分と郷土資料館で入ることになって、今の段階で予算が結構厳しいと思います。だから介護だけ上手くいくということはちょっと考えにくいのかなと。図書館も1億円の寄付をもらっているにも関わらず、全然なっていない。だけれども、室蘭市と共存してるから、上手くいってそんな感じがするけど、登別市の図書館しか使えなかったら、悲惨な感じだと思います。現状、予算があるところでやってるわけじゃないので、介護保険だけうまくできるのはちょっと疑問です。それで危機感はないのかと言ったんです。

事務局 危機感がないわけではなく、ただ介護保険のところは介護保険料をいただきながら、その中で市の繰り出しも基準どおりに受けながら、なんとかやっていける見込みということで、この第9期計画を策定しているところです。ただ、危機感がないわけではございませんが、基金等適切に活用して今までどおりのサービスが提供できるものという認識でおります。

委員 介護事業者の方もいらっしゃるから、登別の事業者は大抵室蘭のサービス地域になってると思います。その逆も一緒だと思います。ケアマネ連絡会とかも室蘭の人はいれないとかないでしょう。だから境界線もないし、ほぼ一緒だから、広域というような考えはないんですか。それだと11万2千人くらいの人口で介護保険を運営できると思うんですが。

事務局 今現在の制度の中では本市でまかなうことになっておりますので、そういった考えはありません。